

田 別子鑛業所甘愛媛縣新居浜町に在り佐友合資會社の經營にして資本金一億五千萬
大正十四年十一月末に於ける労働者總數は約四千九百名にして其の分布状態を見
ると、東平約千二百名、端出場約千名、新居浜約千五百名、四阪島製鍊所約六百名

肥料製造所約六百名である。右の内新居浜に在る者は純粹の鉦夫に非ず主として機械工ふるが故に多くの者は
本事件の中心を離れ又四阪島製鍊所も地理的關係のため金く園外にあつた。

即ち東平、端出場の鉦夫約二千名であつた。而して是等労働者の内約二割に相当する者が組合員として争議を惹起し其の他の
者は改善會社として資本側に屬し、同じく労働者にして相友目抗争せるものである。

歐州淺争勸業以來我國労働運動は急激に抬頭し金田著名の工場鉦山にして其の波
及び免れしもの殆んど掃かりしに拘はらず独り別子鉦山の井最道も其の例に洩れ
来りしは、蓋し同地が遠く本土を離れて西の一角に位し交通不便にして労働運動
者の素意、如くふる能はざりしことに加へて所謂佐友式の温情主義の相當徹底的
あるものありし爲めであつたと云ふ得よう。

殊に本筋は古く元禄時代よりの創業者屬し、爾來労働團の極端ふる主従關係は父
子相傳にして金田を凡靡も労働運動を別子の地には金く忘却せられつ、ありしも
の、起つておつた。

然るに時勢の所産とも見るべきや、大正十三年秋日本労働總同盟系の別子労働組
合の生る、や労働の關係又必おしむ旧來の如くある能はず、爾後組合側は擴張宣傳
に努め會社又頑りにこれが鎮壓防止に腐心し殊に會社が自派擁護の労働團體を設け
て組合に對抗せしむること、おせしより兩者の反目は漸く熾烈とありつ、ありしが
偶々飯尾金治辭職事件ありて遂に今回如き紛擾を勃発するに至つたのである。